

「御前崎市の将来推計人口」では、2045年には2万人を割るという推計が出ています（グラフ）。この数値は、平成27年10月に実施された国勢調査の結果をベースに過去からの出生率や死亡率などを加味して算出されています。あくまでも推計値ですが、本市の人口が減少傾向にあることは紛れもない事実です。

### 生産年齢人口層が減少

グラフをみると高齢者の人数が増加もしくは横ばいで推移しているのに対し、15歳から64歳までのいわゆる「生産年齢人口層」の人数が大幅に減少していくことが分かります。また、それに伴うように0歳から14歳までの「年少人口」も減少しています。

今後、生産年齢人口層が減っていくとどうなるのでしょうか。市の人口減少に歯止めをかけるため、平成27年度に市が策定した「御前崎市まち・ひと・しごと創生総合戦略」では、次の

ように分析しています。

- ① 地域産業で人材不足や後継者不足が発生する
- ② 地域市場が縮小すれば既存する立地企業が流出する可能性がある
- ③ 地域コミュニティの担い手が不足し、有事の際の自助・共助能力が低下、伝統文化も継承されない
- ④ 生産年齢人口層の社会保障費負担が増す
- ⑤ 税収の減少により財政が逼迫する など

### 減り続ける若者世代

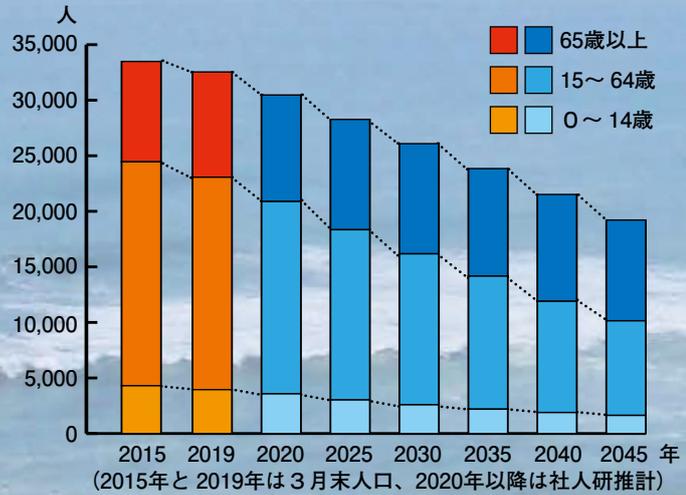
生産年齢人口層の中でも著しく減るのが、16歳から35歳までの若者世代。市がまとめた平成30年度年齢別人口移動をみると転入者が593人、転出者が749人で156人の減となっています。

転出理由については明らかではありませんが、大学や専門学校がない本市の事情からも、高校生の進学による転出や進学先での就職、若い世代の市外への転居などが考えられます。

平成30年度年齢別人口移動 (人)

年齢層	転入	転出	増減
0～5歳	64	90	-26
6～10歳	27	40	-13
11～15歳	10	25	-15
16～20歳	75	97	-22
21～25歳	215	259	-44
26～30歳	172	216	-44
31～35歳	131	177	-46
36～40歳	90	104	-14
41～45歳	61	80	-19
46～50歳	45	57	-12
51～55歳	35	35	0
56～60歳	32	39	-7
61～65歳	18	17	1
66～70歳	22	19	3
71～75歳	6	11	-5
76～80歳	12	12	0
81～85歳	8	6	2
86～90歳	5	6	-1
91～95歳	3	2	1
96～100歳	0	0	0
101歳以上	0	0	0
合計	1037	1156	-261

御前崎市の将来推計人口 (社人研)



	2015	2019	2020	2025	2030	2035	2040	2045
人口	33,488	32,541	30,468	28,271	26,088	23,486	21,517	19,214
65歳以上	9,034	9,471	9,585	9,928	9,914	9,679	9,617	9,068
15～64歳	20,151	19,120	17,312	15,320	13,589	11,974	10,010	8,515
0～14歳	4,303	3,950	3,571	3,023	2,585	2,193	1,890	1,631